

2018年 JTA ルールの変更点（プレイヤーに直接関係する諸点を抜粋）

JTA TENNIS RULE BOOK 2018 該当ページ	中項目	小項目	新ルール	旧ルール
60	5. チェアアンパイアがつかない試合方法	1. セルフジャッジの方法	<p>2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、<u>ボールとラインの間に空間が見えなかった時</u>、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。</p> <p>3) 判定とコールは、相手には<u>はっきりと分かる</u>声とハンドシグナルを使って、<u>ボールの着地後</u>速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出してアウト、フォールトを示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。</p>	<p>2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。</p> <p>3) 判定とコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出してアウト、フォールトを示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。</p>
61 62			<p>14) 各判定とコールする権利者は以下の通りとする。</p> <p>a 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレイヤー・チームのいずれか</p> <p>b 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「フェールショット」は両プレイヤー・チーム</p> <p>c 「フットフォールト」はコート内いる R (AR)、RU のいずれか</p>	<p>7) サービスのレットはレシーバーがコールする。誤ってサーバーがサービスのレットをコールしたときは、以下の判断がくだされる。① そのコールによって、プレーが停止された場合は、サーバーの失点。② そのコールに、レシーバーが同意した場合は、サービスのレット。③ そのコールにかかわらず、プレーが続きポイントが終了した場合は、ポイントが成立する。</p>

		<p>1 5) オーバールール 「イン」「アウト」のオーバールールは巡回している R (AR)、RU のいずれかが行える。</p>	
		<p>1 6) 妨害によるレットのコール a コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。 b 対戦相手による無意識の妨害（落とし物 1 回目を含む）は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2 回目以降は故意に妨害したとして失点する。 c 対戦相手からの故意の妨害「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出により R (AR)、RU が判断する。ただし妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。</p>	
6 2		<p>1 7) 誤ったコールを直ちに訂正した場合 インだったボールを誤って「アウト」とコール（ミスジャッジ）したが直ちに訂正（コレクション）した場合は、1 回目は故意でない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかでないショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。そして、2 回目以降は故意に妨害したとして失点する。</p>	<p>4) 「アウト」または「フォールト」とコールした直後に、プレーヤー自身が「グッド」と訂正した場合は、そのプレーヤーの失点となる。また「アウト」「フォールト」とコールし、レフェリーまたはロービングアンパイアによってオーバールールされた場合もそのプレーヤーの失点となる。「グッド」の判定を「フォールト」「アウト」とオーバールールされた場合は、その「フォールト」「アウト」の判定が成立する。ただし例外として、サーブされたボールがネットに触れたあとのフォールトを、「グッド」にオーバールールされた、あるいはプレーヤー自身が訂正した場合はそのサービスをやり直す。この場合に限って失点しない。</p>

R : レフェリー

AR : アシスタントレフェリー

RU : ロービングアンパイア